

ACP（アクティブチャイルドプログラム）の導入 ～エビデンスに基づいた実践へ～

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

今年度の一校一実践は、東京学芸大学の佐藤善人先生、日本スポーツ協会と連携して行います

- ①二学期の体育授業では最初の10分程度を準備運動と兼ねてアクティブチャイルドプログラム（以下ACP）を行う
- ②長期間にわたるACP実践の効果検証を行う
 - ・心理社会面の測定による量的分析（質問紙）
 - ・共起ネットワーク（KH Coder）による質的分析
- ③ACP実践者の座学、実技研修を行う

子どもの心理が運動によってどう変化していくのかを研究します

ここでACPがどんなものかお知らせします

日本スポーツ協会（以下JSP0）HPより抜粋

<ACPの趣旨と概要>

子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かせる。それがアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）です。日本スポーツ協会は、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして、アクティブ・チャイルド・プログラムを開発しました。以来、主に次の4つのテーマについて、実際の指導現場への普及を図っています。



子どもの身体活動量の低下や運動離れは、すでに幼児期から起こっていると考えられています。日本スポーツ協会では、「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」をとりまとめ、安心して幼児を指導できる活動プログラムの提供や情報発信にも努めています。



コロナウイルスの感染状況のことも考え、予定していた8月6日の研修はWeb研修に変えて行いました。

東京と高瀬小の体育館をオンラインで繋ぎ、JSP0の青野浩様と東京学芸大学の佐藤善人先生から約2時間30分ご指導いただきました。



暑い体育館で、講師の話オンラインでしっかり聞く本校職員！

日田市立高瀬小学校 ACP研修会
～実技編～

＜所属先＞東京学芸大学
＜役職＞准教授
＜氏名＞佐藤善人

- ＜実技研修で行った運動＞
- ・からだじゃんけん
 - ・進化じゃんけん
 - ・動物に変身
 - ・模倣あそび
 - ・言うこと一緒やること一緒
 - ・ミラードリブル
 - ・だるまさんが転んだ

★ からだじゃんけん

ACPガイドブック68頁

★ ツーパズル遊びの遊び

進化じゃんけん

ソーシャルディスタンス遊びガイドブック23頁

★ 言うこと一緒、やること一緒

ACPガイドブック73頁

★ 伝承遊び

言うこと一緒、やること一緒

PDF でいただいた ACP の資料は、子どもたちのタブレット端末にも入れています。

受講した職員にも好評だった今回の研修。コロナが収束したら直接対面で教えていただきたいところです。今後子どもたちがどう変容していくかが楽しみです。